3. 欲しいデータを取得する (DRA経由) (7/14)

http://trace.ddbj.nig.ac.jp/dra/index.html

DDBJ					Logir	ı & Submit │ Datab	ases ▼ │ English │ Contact			
Sequence Read Archive					Google カスタム検索					
Home	Handbook	FAQ	Search	Download ▼	Pipeline	About DRA				
News										
2018年01	月18日 New : Pla	nned DF	A submissi	on system resto	ration: 22th,	January (Mono	lay) more			
2018年01	月18日 <mark>New</mark> : DR	A 登録シ	ステムの復旧	予定: 1/22 (月) mor	e					
2017年12	月22日: ディスク	障害により	DRA 登録シ	ステムの停止 more.						
などの次世代シークエンサからの出力データのためのデータベースです。 DRA は International Nucleotide Sequence Database Collaboration (INSDC) のメンパーであり、 NCBI Sequence Read Archive (SRA) と EBI Sequence Read Archive (ERA) との国際協力のも と、運営されています。										
				دالس ح		登録				
				igstyle						



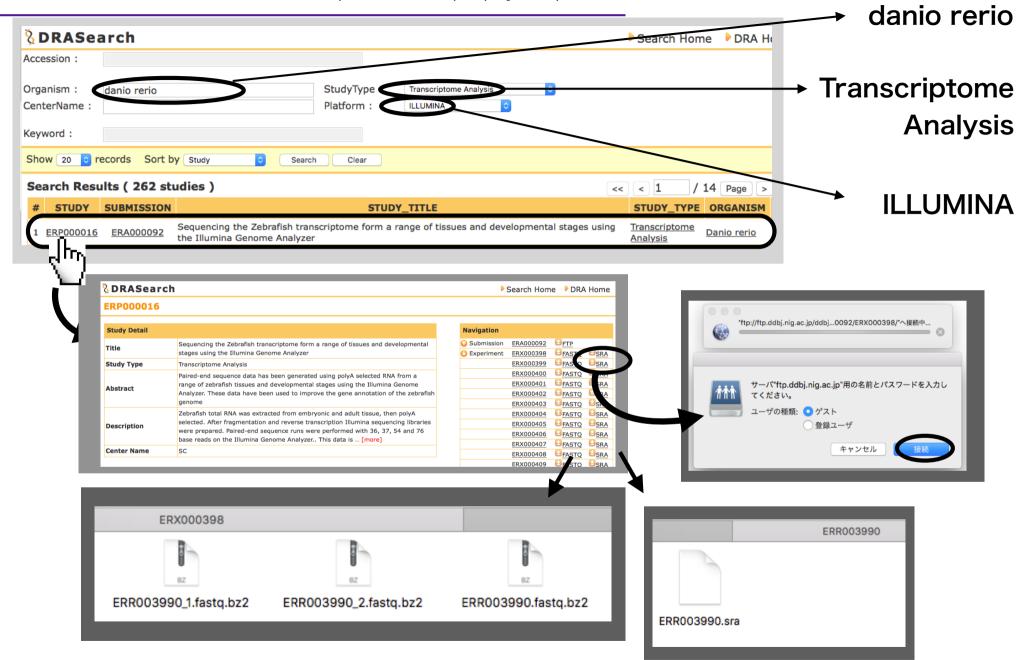
§ DRASearch		Sea
Accession :		
Organism : CenterName :	StudyType : Platform : \$\dagger\$	\$
Keyword :		
Show 20 \$ records Sort by Study \$ Sea	rch Clear	
		D







3. 欲しいデータを取得する (DRAから) (8/14)







/ddbj_database/dra/fastq/ER/

1 [親ディレクトリ]

名前	サイズ	更新日		
ERR003990.fastq.bz2	63.4 kB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003990_1.fastq.bz2	新しいタブで開く	元 明 /	00:00	# Control key を押しながらクリック
ERR003990_2.fastq.bz2	新しいウインドウ [*] シークレット ウイ	で用く ンドウでリンクを開く	00:00	" Control Rey Elifornia 37777
ERR003991.fastq.bz2	リンク先を別名で	保存	00:00	
ERR003991_1.fastq.bz2	リンクのアドレス		00:00	
ERR003991_2.fastq.bz2	検証		00:00	
ERR003992.fastq.bz2	1.5 kB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003992_1.fastq.bz2	162 MB	2015/10/12 9	:00:00	
ERR003992_2.fastq.bz2	181 MB	2015/10/12 9	:00:00	

ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003990_1.fastq.bz2





3. 欲しいデータを取得する (DRAから) (10/14)

#後の作業のために下記4つのファイルをダウンロードしておく

```
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003991_1.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003991_2.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003992_1.fastq.bz2
[dstep@nt094 dstep20180126]$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/fastq/ERA000/ERA000092/ERX000398/ERR003992_2.fastq.bz2
```

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ bunzip2 ERR00399*bz2 # <- 時間がかかる



比較のために、ERR003990.sraファイルもダウンロードしておく

[dstep@nt094 DSTEP20180126]\$ wget ftp://ftp.ddbj.nig.ac.jp/ddbj_database/dra/sralite/ByExp/litesra/ERX/ERX000/ERX000398/ERR003990/ERR003990.sra







3. 欲しいデータを取得する (DRAから) (11/14)



fastq-dump ERR003990.sra

/usr/local/pkg/sra-tools/2.5.7/bin/fastq-dump.2.5.7 --split-files ERR003990.sra <- やってはいけない

qsub コマンドを利用する。必ず!!

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ cat sra2fastq.qsub

<- qsub用のスクリプトを作成して、

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/bash
#$ -cwd
#$ -l short
#$ -l s_vmem=1G,mem_req=1G
#$ -o ./
#$ -e ./

source ~/.bashrc

FASTQDUMP="/usr/local/pkg/sra-tools/2.5.7/bin/fastq-dump.2.5.7"
Dbdir="/home/dstep/tanomare/dstep20180126"

$FASTQDUMP --split-files ERR003990.sra
```

[dstep@nt094 dstep20180126]\$ qsub sra2fastq.qsub

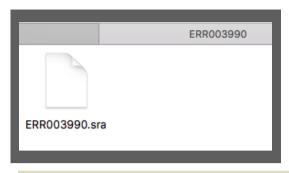
<- qsubコマンドを利用して計算機に投入





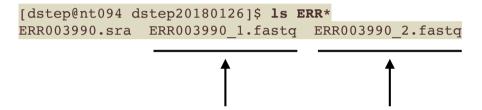


3. 欲しいデータを取得する (DRAから) (12/14)



[dstep@nt094 dstep20180126]\$ qsub sra2fastq.qsub

<- qsubコマンドを利用して計算機に投入

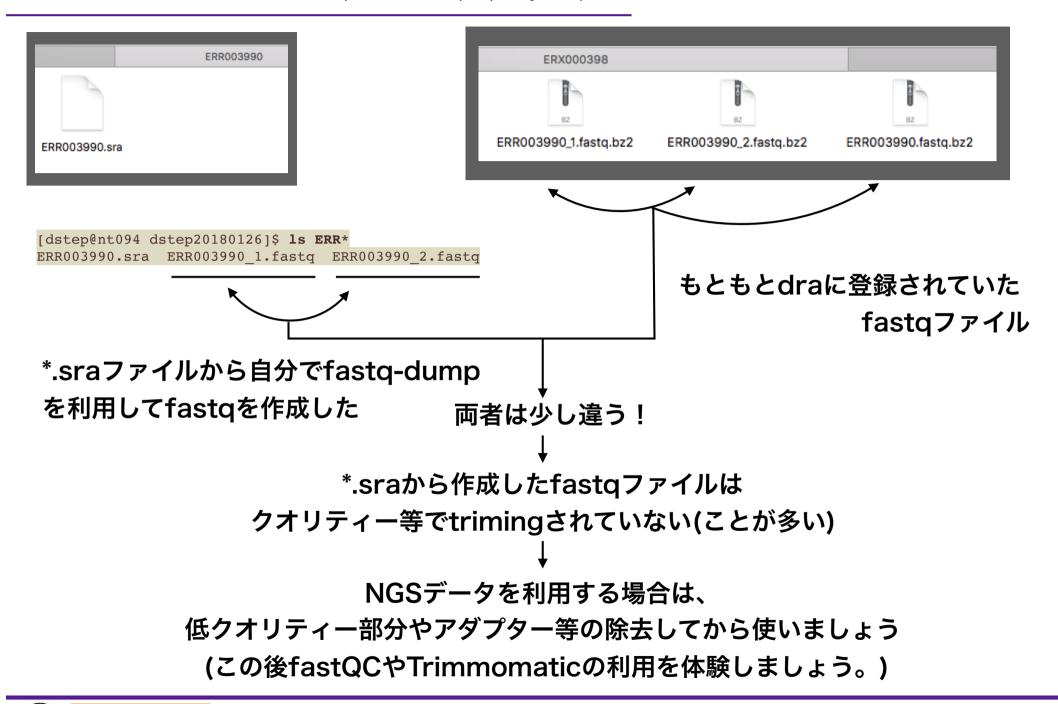


SRAファイルから、ペアエンドのfastqファイルが取得できた





3. 欲しいデータを取得する (DRAから) (13/14)





3. 欲しいデータを取得する (14/14)

以上で、

- 3-1. NIGのスパコンにすでに整備してあるデータベースを利用する
- 3-2. その他のゲノムの基礎データの登録サイト (いくつか)
- 3-3. DRAから取得

これらの典型的なデータの取得方法を学びました。

Webブラウザからクリックしてダウンロードする場合、

wgetやcurlコマンドを利用する場合、

ftpコマンドを利用する場合、などがありました。

またDRAやSRAに特徴的なこととしてfastq-dumpの利用方法も学びました。

なお、DRAから *.sraファイルを取得すると、cfq フォーマット(solidのcolor space)の配列という場合があります。cfqからfqへの変換方法を知っておきたい方ははおられますか?





4. 自分の環境を使いやすくする

UNIX系の計算機環境では、自分の利用している環境を使いやすくするために、環境変数や各種設定ファイルの編集方法を学んでいなくてはなりません。本来最初に学ぶべきこれらの事柄をここまでは避けて説明してきました。

NIGの大型計算機には主要なゲノム解析様のプログラムがかなりインストールされていますが、これらを利用するためにも環境変数について学ばなければなりません。

また利用者が利用したいプログラムがインストールされていない場合は、利用者ご自身でご自身の計算機環境にそのプログラムをインストールする必要があるでしょう。

- 4-1. 環境変数について学びましょう
- 4-2. ローカルに好みのプログラムをインストールすることを学びましょう。





4. 1-4. 環境変数 (6/8)のおさらい (1/6)

```
# gloginしたターミナルにて
echo "TEST"
printenv
printenv
printenv | sed -e "s/=.*//"
echo $HOME
echo $SHELL
echo SPWD
echo $USER
echo SPATH
time
which time
[dstep@nt098 ~]$ which time
/usr/bin/time
                               # time コマンドは /usr/binの下においてある
echo $PATH
                               # /usr/binというディレクトリは確かに環境変数PATHの中に記載されている
```

[dstep@nt098 ~]\$ echo \$PATH
/usr/local/bin:/bin:/usr/bin:/usr/local/sbin:/usr/sbin:/opt/ibutils/bin:/opt/intel/itac/8.1.3.037/bin:/home/dstep/local/bin
実際の表示とは変えてあります







4. 1-5. 利用可能OSS (7/8) のおさらい (2/6)



	0.5.0	//////O.F.O	1-			-	2012/02/07 11:07
	0.5.9	/usr/local/pkg/bwa/0.5.9	0	0	0	0	2012/02/07 11:07
	1.6	/usr/local/pkg/canu/v1.6	0	0	0	0	2017/10/19 14:22
canu	4.5	/usr/local/pkg/canu/v1.5	0	0	0	0	2017/05/18 15:42
	1.5	/usr/local/pkg/canu/current	0	0	0	0	2017/05/18 15:42
	0.69-6	/usr/local/nkg/circos/0.69-6	0	0	0	0	2017/10/19 14:36

/usr/local/pkg/canu/current

[dstep@nt094 ~]\$ /usr/local/pkg/canu/current/bin/canu --version

Canu snapshot v1.5 +43 changes (r8243 f05c81531c19887459ca53ac3702509ee70eac22)

full pathを打たないで使えるようにしたい

[dstep@nt094 ~]\$ canu

-bash: canu: コマンドが見つかりません

- # 環境変数PATHにcanuのfull pathを追加する
- # 下記は、打ち間違えると嫌な目にあいます。
- \$ export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"
- # 確かにcanuと打つだけで、canuが使えるようになった。
- \$ which canu

/usr/local/pkg/canu/current/bin/canu

- # 今後もずっと環境変数PATHにcanuのfull pathを追加されるようにする
- # 下記は、打ち間違えるとひどい目にあいます。慎重に!!(もしくは試さない)
- \$ echo 'export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"' >>~/.bashrc
- \$ source ~/.bashrc





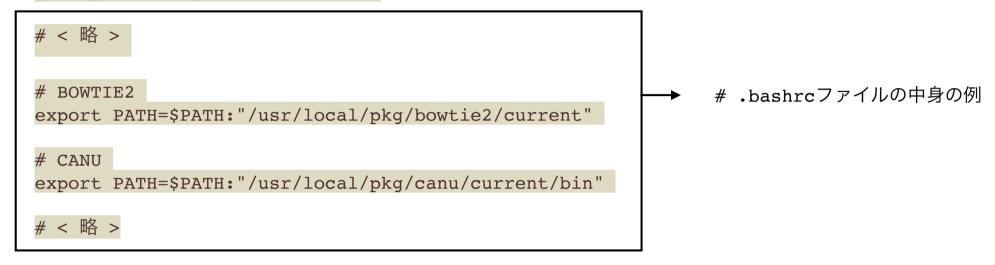




4. 自分の環境を使いやすくする (3/6)

すでにインストールしてあるプログラムについては、PATHを通すだけで利用できる。

[dstep@nt098 ~]\$ cat ~/.bashrc



- # 自分で好みのプログラムをインストールする方法は!?
- # Gblocksというプログラムのインストールを体験してみましょう。
- # Gblocksは、SpainのCastresana Labが開発したアライメントの保存領域選択ツールです。
- # http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks.html
- # http://genome.gsc.riken.jp/osc/english/dataresource/
- # http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks_Linux64_0.91b.tar.Z







4. 自分の環境を使いやすくする (4/6) Gblocksの install

```
# http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
 # Gblocksのインストール
                                                                          TagDust

    DESCRIPTION: TagDust is a program to eliminate artifactual reads fro

    REQUIREMENTS: Unix / Linux.

    LICENSE: GNU General Public License

 # ホームディレクトリにソースファイルを格納するディレクトリを作ります

    CITEATION:

    Lassmann T., et al. (2009) TagDust - A program to eliminate artifact

[dstep@nt098 src]$ mkdir ~/src

    SOFTWARE DOWNLOAD: tagdt

                                                                                             新しいタブで開く
[dstep@nt098 src]$ mkdir ~/src/qblocks

    CONTACT: timolassmann@gr

                                                                                          rlhr 新しいウインドウで開く
[dstep@nt098 src]$ cd ~/src/qblocks
                                                                          EdgeExpressDB (eeDB)
                                                                                              シークレット ウインドウでリン
[dstep@nt098 gblocks]$ pwd

    DESCRIPTION: EdgeExpressDB

                                                                                              リンク先を別名で保存...
                                                                            datasets. It is designed for scaling
/home/dstep/src/qblocks
                                                                            available via CPAN and is being t
                                                                                             リンクのアドレスをコピー
 # wgetでソースファイルを取得取得
[dstep@nt098 gblocks]$ wget http://molevol.cmima.csic.es/castresana/Gblocks/Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
                                             Tダウンロード先のURLはコピペで良い
 # gunzipと tarでソースファイルを解凍
  [dstep@nt098 gblocks]$ Gblocks Linux64 0.91b.tar.Z
  [dstep@nt098 qblocks]$ 1s
  Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ tar xvf Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ ls
                                                    # インストールといってもGblocksは解凍するだけですぐ使える
  Gblocks 0.91b Gblocks Linux64 0.91b.tar
  [dstep@nt098 tmp]$ cd Gblocks 0.91b
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ls [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir
  Documentation Gblocks more alignments nad3.pir paths
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ./Gblocks nad3.pir -t=p -e=-gb1 -b4=5 -d=y
  [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ ls
                                                        nad3.pir-qb1PS
  Documentation more alignments nad3.pir-qb1
  Gblocks
                                    nad3.pir-gb1.htm paths
                  nad3.pir
 [dstep@nt098 Gblocks 0.91b]$ cat nad3.pir-qb1
```







4. 自分の環境を使いやすくする (5/6)

- # Gblocksを適切なディレクトリ(今回は ~/local/binを設定)に移動させる。
- # 環境変数 PATH に ~/local/binを追加する。

```
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ mkdir ~/local
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ mkdir ~/local/bin
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ cp Gblocks ~/local/bin
```

下記は、打ち間違えるとひどい目にあいます。慎重に!! (不安なら試さない)

```
[dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ echo 'export PATH=$PATH:"/usr/local/pkg/canu/current/bin"' >>~/.bashrc [dstep@nt098 Gblocks_0.91b]$ source ~/.bashrc
```

- # Gblocksは解凍するだけですぐに使えました。
- # 他の多くのプログラムは、
 - ./configure -prefix="~/local/bin"
 make
 make install
- # としないと、動くプログラムが作成されません。
- # ./configure の後ろにオプションとして、-prefix="~/local/bin"
- # としておくのが、ローカル環境にプログラムをインストールする時のTips(コツ)です。





4. 自分の環境を使いやすくする (6/6)

以上で、自分の環境へ好みのプログラムをインストールする基礎を学びました

1. 環境変数について学びました。特にPATH環境変数を学びました。 プログラムがどのディレクトリに存在するかはPATHに教えなければなりません。 もし自分のプログラムを~/local/binに入れることにした場合は、~/.bashrcファイルに

export PATH=\$PATH:"~/local/bin"

と記載します。

~/local/bin以外のディレクトリにプログラムが存在する場合は、そのディレクトリを 環境変数PATHに追加しましょう。

例えば. nigの大型計算機にすでにインストールされているbowtie2を利用したければ

export PATH=\$PATH:"/usr/local/pkg/bowtie2/current"

などとすると利用できます。

2. nigの大型計算機に自分でプログラムをインストールする例を学びました。 プログラムのインストール方法は、プログラム毎に様々です。 READMEかINSTALLファイルに記載してあることが多いです。

その手順が ./configure; make; make install の3ステップのものが多いですが、 この場合、./configureをする際に、./configure _prefix="~/local/bin" などとする必要がある場合があります。







5. short readのマッピング

ここまでで学んだことは、UNIX系OSの基本コマンドいくつか、大型計算機へのログイン方法、大型計算機へのコマンドの投入方法 (キューイングシステム)、必要な生物学データの取得と自分の環境 へのアップロード、必要なプログラムを自分の環境へインストールすること、などを学びました。

これらの知識のおさらいとして、実際に配列解析の手順の一例を体験してみましょう。参照配列にshort readの配列をマッピングして見ることにします。





5. マッピング作業 (1/13)

すでにダウンロード済みの下記の配列ファイルをリファレンス配列にマッピングしてみましょう

ERR003990_1.fastq ERR003990_2.fastq

手順は

- # ゼブラフィッシュのゲノム配列をリファレンス配列として取得しておく。(Ensembl)
- # 今回は下記サイトから、染色体9番の配列だけを取得して利用。

ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio_rerio/dna/Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

- # それぞれのfastqファイルのアダプターやクオリティーをfastQCでチェックする
- # Trimmomaticをインストールしておく
- #適切な値のクオリティーでフィルタリングする。Trimmomatic
- # 得られたHigh Qualityのreadを、リファレンスにbowtie2でマッピングする。
- # samtools でマッピングの様子を眺める。
- # samtools でpileupしたファイルを作成する。

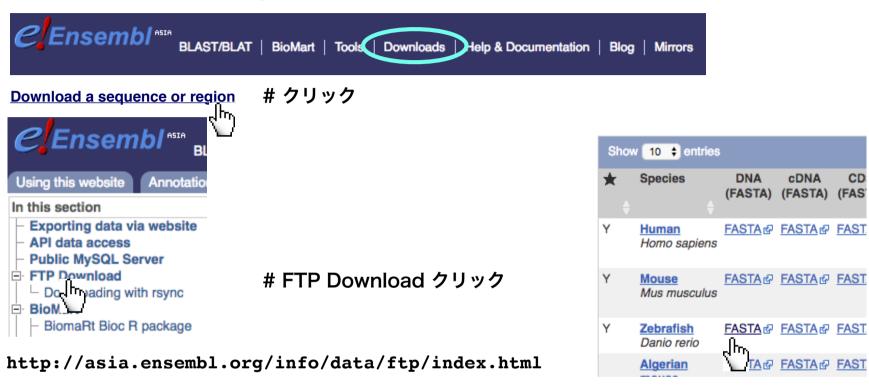




5. マッピング作業 (2/13)

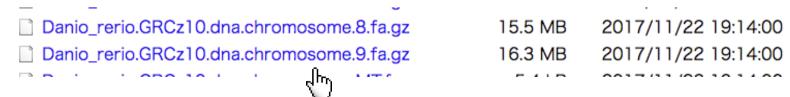
ゼブラフィッシュのゲノム配列をリファレンス配列として取得しておく。(Ensembl)

http://asia.ensembl.org/index.html



Zebrafishの DNA (FASTA)を クリック

ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio rerio/dna/



ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio_rerio/dna/Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz







5. マッピング作業 (3/13)

wget ftp://ftp.ensembl.org/pub/release-91/fasta/danio_rerio/dna/Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

↑ ダウンロード先のURLはコピペで良い

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ **ls**DRR016430.sra

Danio rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz hemoglobin b.fa

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ gunzip Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.gz

[dtep@nt098 dstep20180126]\$ **ls**DRR016430.sra

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa hemoglobin_b.fa

これでゼブラフィッシュのリファレンスゲノム配列を取得できた





5. マッピング作業 (4/13)

本来はそれぞれのfastqファイルのアダプターやクオリティーをfastQCでチェックする

fastQCはご自身のパソコンで行うほうがだいたいうまくいきます。今回はスルー

trimmomaticをインストールする

http://www.usadellab.org/cms/?page=trimmomatic

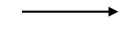
Trimmomatic: A flexible read trimming tool for Illumina NGS data

Citations

Bolger, A. M., Lohse, M., & Usadel, B. (2014). Trimmomatic: A flexible trimmer for Illumina Sequence Data. Bioinformatics, btu170.

Downloading Trimmomatic

Version 0.36: binary, source and manual



Downloading Trimmomatic

Version 0.36: binary source and manual リンクを新規タブで開く リンクを新規ウインドウで開く リンク先のファイルをダウンロード リンク先のファイルを別名でダウンロード… リンクをブックマークに追加… リンクをリーディングリストに追加 Paired End: リンクをコピー









–trimmomaticのインストール、続き——

```
[dstep@nt098 ~1$ cd ~
[dstep@nt098 ~1$ mkdir src/
[dstep@nt098 ~]$ mkdir src/trimmomatic
[dstep@nt098 ~]$ cd src/trimmomatic
[dstep@nt098 trimmomatic]$ wget http://www.usadellab.org/cms/uploads/
supplementary/Trimmomatic/Trimmomatic-0.36.zip
                                                 ダウンロード先のURLはコピペで良い
[dstep@nt098 trimmomatic]$ 1s
Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ unzip Trimmomatic-0.36.zip
Archive: Trimmomatic-0.36.zip
  creating: Trimmomatic-0.36/
 inflating: Trimmomatic-0.36/LICENSE
[dstep@nt098 trimmomatic]$ ls
Trimmomatic-0.36 Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ cd Trimmomatic-0.36
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ 1s
LICENSE adapters trimmomatic-0.36.jar
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ pwd
 /home/dstep/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36
                                                  <- # このpathを覚えておく
                           # trimmomaticもダウンロードして解凍すればそれで使える
```

5. マッピング作業 (6/13)

ここまでで、リファレンス配列とクエリーになるRNAseq配列の取得がすみ、 # RNAseqのクオリティーフィルターをかけるためのTrimmomaticのインストール # が済んだ。次はTrimmomaticでRNAseqのクオリティーフィルターをかける。

データのあるディレクトリに戻る

[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]\$ cd ~/dstep20180126

小量データのサンプルファイルを作る

[dstep@nt098 dstep20180126] head -4000 ERR003990_1.fastq >s1.fastq [dstep@nt098 dstep20180126] head -4000 ERR003990_2.fastq >s2.fastq

[dstep@nt098 dstep20180126] java -jar ~/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/ trimmomatic-0.36.jar PE s1.fastq s2.fastq s1.tmf.fastq s1.tmf.unp.fastq s2.tmf.fastq s2.tmp.unp.fastq TRAILING:20 MINLEN 36





–trimmomaticのインストール、続き——

```
[dstep@nt098 ~1$ cd ~
[dstep@nt098 ~1$ mkdir src/
[dstep@nt098 ~]$ mkdir src/trimmomatic
[dstep@nt098 ~]$ cd src/trimmomatic
[dstep@nt098 trimmomatic]$ wget http://www.usadellab.org/cms/uploads/
supplementary/Trimmomatic/Trimmomatic-0.36.zip
                                                 ダウンロード先のURLはコピペで良い
[dstep@nt098 trimmomatic]$ 1s
Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ unzip Trimmomatic-0.36.zip
Archive: Trimmomatic-0.36.zip
  creating: Trimmomatic-0.36/
 inflating: Trimmomatic-0.36/LICENSE
[dstep@nt098 trimmomatic]$ ls
Trimmomatic-0.36 Trimmomatic-0.36.zip
[dstep@nt098 trimmomatic]$ cd Trimmomatic-0.36
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ 1s
LICENSE adapters trimmomatic-0.36.jar
[dstep@nt098 Trimmomatic-0.36]$ pwd
 /home/dstep/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36
                                                  <- # このpathを覚えておく
                           # trimmomaticもダウンロードして解凍すればそれで使える
```

5. マッピング作業 (8/13)

trimmomaticを使ってクオリティーフィルターをします # 下記のコマンドで結果が得られるはずですが、 # java -jar trimmomatic.jar PE s 1.fq s 2.fq s 1.filt s 1.unpair.fq s 2.filt.fq s 2.unpair.fq TRAILING:5 MINLEN:35 java -jar ~/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/trimmomatic-0.36.jar \ PE ERR003990 1.fastq ERR003990 2.fastq \ ERR003990 1.trimmomatic.fq ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq \ ERR003990 2.trimmomatic.fq ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq \ TRAILING:8 MINLEN:36 # すでに学んだ通り、qsub様のスクリプトを作成してqsubに投げる [dstep@nt098 dstep20180126]\$ cat trimmomatic.sh

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/sh
#$ -cwd
  -1 s_vmem=10G,mem req=10G
#$ -1 short
#$ -pe def slot 1
#$ -o ./log
#$ -e ./log
source ~/.bashrc
cd /home/dstep/tanomare/dstep20180126
java -jar ~/src/trimmomatic/Trimmomatic-0.36/trimmomatic-0.36.jar PE ERR003990 1.fastq
ERR003990 2.fastq ERR003990 1.trimmomatic.fq ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq
ERR003990 2.trimmomatic.fq ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq TRAILING:8 MINLEN:36
```







5. マッピング作業 (9/13)

```
# trimmomaticを使ってクオリティーフィルターをします
# すでに学んだ通り、qsub様のスクリプトを作成してqsubに投げる
[dstep@nt098 dstep20180126]$ mkdir log
[dstep@nt098 dstep20180126]$ qsub trimmomatic.sh
# 少し時間がかかります
[dstep@nt098 dstep20180126]$ qstat
# qstat を何度か使って、コマンドの進み具合を見ます
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls log
[dstep@nt098 dstep20180126]$ cat log/trimmomatic.sh.e*
# ERR003990 1.fastqとERR003990 2.fastq の二つの元ファイルから、
# クオリティーフィルターをかけた ERR003990 1.trimmomatic.fgとERR003990 2.trimmomatic.fg
#が得られた。
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls ERR*
ERR003990.sra
                               ERR003990 2.fastq
                               ERR003990 2.trimmomatic.fq
ERR003990 1.fastq
                               ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq
ERR003990 1.trimmomatic.fg
ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq
[dstep@nt098 dstep20180126]$ ls ERR*
[dstep@nt098 dstep20180126]$ wc ERR003990 *.fq
  21290748 42581496 950083932 ERR003990 1.trimmomatic.fg
                                                                 - # ペアは同数
              754048 16799544 ERR003990 1.trimmomatic.unp.fq
    377024
  21290748 42581496 950198864 ERR003990 2.trimmomatic.fg
                                                                  になっている
                      19079832 ERR003990 2.trimmomatic.unp.fq
    427972
              855944
```



5. マッピング作業 (10/13)

必要なファイルが揃いました [dstep@nt098 dstep20180126]\$ ls Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa ERR003990_1.trimmomatic.fq ERR003990 2.trimmomatic.fg

#-h オプションをつけると使い方を表示する

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ /usr/local/bin/bowtie2-build -h

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ bowtie2-build -f

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa

それほど大きくない配列なので、今回はbowite2-buildをqsubに投げませんが # こういう場合も本来はqsubコマンドを作成してください。

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ **ls**

Danio rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa

Danio rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.1.bt2

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.2.bt2

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.3.bt2

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.4.bt2

Danio rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.rev.1.bt2

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa.rev.2.bt2







5. マッピング作業 (11/13)

必要なファイルが揃いました

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ cat bowtie2.qsub

```
#!/bin/sh
#$ -S /bin/sh
#$ -cwd
#$ -1 s_vmem=10G,mem_req=10G
#$ -1 short
#$ -pe def_slot 1
#$ -o ./log
#$ -e ./log

source ~/.bashrc

bowtie2 -q -x Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa -1
ERR003990_1.trimmomatic.fq -2 ERR003990_2.trimmomatic.fq
-S danio_ERR003990.sam

# -Sオプションに与えた名前が出力
```

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qsub bowtie2.qsub

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ wc danio_ERR003990.sam







5. マッピング (12/13)

samtoolsでの一連の作業

```
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools view -bt Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa -o danio_ERR003990.bam danio_ERR003990.sam

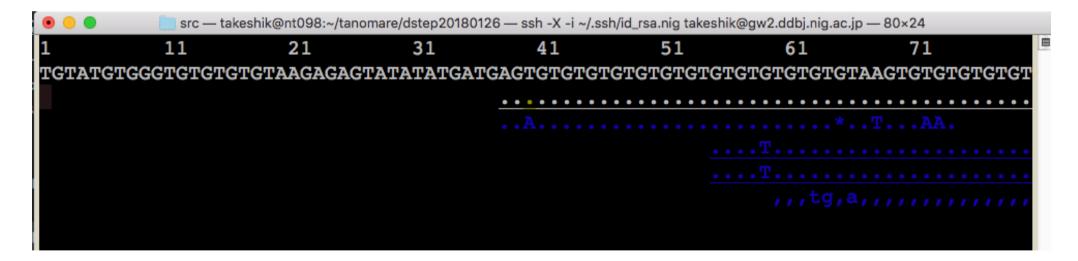
[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools sort -o danio_ERR003990.sorted.bam danio_ERR003990.bam

[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools index danio_ERR003990.sorted.bam

[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools faidx Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa

[dstep@nt098 dstep20180126]$ samtools tview danio_ERR003990.sorted.bam

Danio_rerio.GRCz10.dna.chromosome.9.fa
```



キーボードのLとHで配列上を見ることができる。 # キーボードのqで終了することができる







5. マッピング (13/13)

以上で、

リファレンスとなるゲノム配列にshort readのクエリーをマッピングする手順を学びました。 実際には、この後さらに、マッピングの深さの分布やエラーやSNPの分布をpileupして データを統計的に解析する (集団遺伝学的解析など)、マッピングによって得られたピークを検出する (ChIPSeq、DNase-seq、ATAC-seqなど)、マッピング領域を取り出す(RNAseqによる遺伝子予測など)、様々な解析が必要になります。

これら個別の解析方法についてはお伝えした参考図書が参考になるでしょう。





6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング

ここまでで学んだqsubコマンドの利用方法は非常に初歩的なもののみです。ご自身の解析時間の短縮のためにも、大型計算機のリソースを有効利用するためにも、より効率的なshellプログラムの書き方を学びましょう。





6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング (1/2)

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ cat bowtie2 multi.qsub

【# \$SGE_TASK_ID に-tで与えた数値が順に入る

[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qsub -t 1-3 bowtie2_multi.qsub
Your job-array 10398586.1-3:1 ("bowtie2 multi.qsub") has been submitted

[[dstep@nt098 dstep20180126]\$ qstat										
_	job-ID	prior	name	user	state	submit/star	rt at	queue	jclass	slots ja-t	ask-ID
-											
	10397226	0.25133	QLOGIN	dstep	r	01/19/2018	13:12:54	login.q@nt098i		1	
	10398580	0.25011	QLOGIN	dstep	r	01/19/2018	16:39:45	login.q@nt099i		1	
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 1	
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 2	
	10398586	0.25000	bowtie2_mu	dstep	r	01/19/2018	16:58:54	short.q@nt115i		1 3	







6. キューイングシステム利用のための簡単なBASHプログラミング (2/2)

下記三つのファイルが得られた。

danio.ERR003990_1.trimmomatic.fq.pe.sam danio.ERR003991_1.fastq.pe.sam danio.ERR003992_1.fastq.pe.sam



7. (時間に余裕があれば) 描画のための簡単なRプログラミング (1/9)

Rについては当日、講演者が作業をお見せするのみにいたします。



